

(注) 本報は、主に現地紙における報道を当館限りで日本語でまとめたものです。記事の中の客観事実は日本政府や現地政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承ください。

ベナン月報(2023年1月)

【内政】

- 8日、国民議会議員選挙が実施された。(9日各紙)
- 11日、国家独立選挙委員会(CENA)は、国民議会議員選挙の暫定結果を公表した。各党の獲得議席数は、進歩再生党53議席、共和党28議席、民主党28議席(全109議席)。女性議員数は28名。(12日各紙)
- 12日、憲法裁判所は、国民議会議員選挙の確定結果を公表した。各党の獲得議席数及び内訳並びに女性議員数はCENAの暫定結果と同一。(13日各紙)
- 26日、国民議会議員選挙確定結果に対する民主党及び共和党の憲法裁判所への不服申立計7件が全て棄却された。(27日各紙)

【外政】

- 13日及び14日、秦剛・中国外交部長はベナンを訪問し、タロン大統領と会談してベナン・中国協力関係の強化に向けた行動指針を定め、グロ・ジベ経済特区を訪問した。(16日各紙)
- 24日、駐ベナン加・米・日・スイス及びEU代表部(仏・独・ベルギー・オランダ代表)大使は、国民議会議員選挙に関する共同声明を発出した。(25日各紙)

【治安】

- 29日、コリーヌ(COLLINES)県ダッサズメ(Dassa-Zoumé)で、高速路線バスとタンクローリーが衝突し、バスから出火して多数の乗客が死傷した。(30日各紙)

【経済】

- 2日、アフリカ中央銀行は、ベナンの2021年の対外収支は約5975億CFAフランの黒字であったと発表した。(5日、L' Economiste 紙)

【文化・その他】

- 12月29日及び30日、空手ベナン全国大会が開催された。(2日、La Nation 紙他)
- 10日、ブドゥー教の祭典がベナン全国で開催された。(11日各紙)

※下記内容は、La Nation 紙、Le Matinal 紙、L' Evénement Précis 紙、L' Economiste 紙および Le Matin Libre 紙の記事を元に記載したものです。

【内政】

- ヤイ元大統領及びウンベジ元民主再生党(PrD党)党首が選挙運動に参加し、それぞれ、民主党(Les Démocrates)及び進歩再生党(UPR党)への支持を呼びかけた。(4日、Le Matinal 紙、5日、Le Matin Libre 紙)
- 8日、国民議会議員選挙が実施された。(9日各紙)

- ・ 11日、国家選挙委員会(CENA)は、国民議会議員選挙の暫定結果を公表した。各党の獲得議席数は、進歩再生党53議席、共和党28議席、民主党28議席(全109議席)。女性議員数は28名。(12日各紙)
- ・ 12日、憲法裁判所は、国民議会議員選挙の確定結果を公表した。各党の獲得議席数及び内訳並びに女性議員数はCENAの暫定結果と同一。(13日各紙)
- ・ 12日、大統領府において、タロン大統領と国家機関(国民議会、憲法裁判所、政府オンブズマン等)、駐ベナン外交団及びベナン国軍との賀詞交換会が開催された。(13日各紙)
- ・ 18日、ビオ・チャネ共和党(BR党)党首は記者会見で、国民議会における民主党との連携可能性を否定した。(19日、Le Matinal 紙)
- ・ 26日、国民議会議員選挙確定結果に対する民主党及び共和党の憲法裁判所への不服申立計7件が全て棄却された。(27日各紙)

【外政】

- ・ 4日、アベノンシ外務・協力大臣は、ベネディクト16世名誉教皇台下の崩御に際し、在ベナン・バチカン大使館で記帳を行った。(5日、Le Matinal 紙)
- ・ 11日、ベナン訪問中のエンバロ・ギニアビサウ大統領はタロン大統領と会談し、地域治安情勢、民主主義及び開発等の議題につき協議した。(12日、La Nation 紙及び Le Matinal 紙)
- ・ 13日及び14日、秦剛・中国外交部長はベナンを訪問し、タロン大統領と会談してベナン・中国協力関係の強化に向けた行動指針を定めた他、グロ・ジベ経済特区を訪問した。(16日各紙)
- ・ 24日、駐ベナン加・米・日・スイス及びEU代表部(仏・独・ベルギー・オランダ代表)大使は共同声明を発出し、国民議会議員選挙の平和的、安全かつ包括的な実施を歓迎した。また、野党及びかなりの数の女性議員が国民議会に参加することでベナンの民主主義は強化されると表明し、係争事が存続する場合には法的手段が選択されることを歓迎するとした。(25日各紙)
- ・ 25日、国境紛争事件(ベナン／ニジェール)国際司法裁判所2005年7月12日付判決執行のための国境画定に係る二国間協定案が閣議決定された。(26日、Le Matinal 紙、27日、L' Evénement Précis 紙)
- ・ 26日、国連人権理事会普遍的・定期的レビューの枠内で、ベナンを対象とする第4回作業部会審査が実施された。(27日、La Nation 紙)

【治安】

- ・ 1日、アリボリ(ALIBORI)県カリママ(Karimama)で三輪自動車が即席爆発装置に触れ、乗員2名が即死した。(3日、Le Matinal 紙)
- ・ 1日、アタコラ(ATACORA)県マテリ(Matéri)で、正体不明の武装集団が女性1名を含む4名と牛数頭を連れ去った。(3日、Le Matinal 紙)
- ・ 16日、「国土安全確保ミッション管理委員会」が設立された。(20日、Le Matinal 紙)

- ・ コトヌ及びアボメ・カラヴィを拠点とする強盗団15名が検挙され、拠点からは現金503万CFAフラン、携帯電話55台、ノートパソコン6台等が押収された。(24日、Le Matinal 紙)
- ・ 29日、コリーヌ(COLLINES)県ダッサズメ(Dassa-Zoumé)で、高速路線バスとタンクローリーが衝突し、バスから出火して多数の乗客が死傷した。(30日各紙)

【経済】

- ・ 12月29日、ザンス元首相がグロ・ジベ経済特区を視察した。(2日、Le Matin Libre 紙及び L' Economiste 紙、3日、L' Evénement Précis 紙)
- ・ 2日、貨物追跡電子明細書(BESC)の申請がオンラインプラットフォーム経由に一本化された。(5日、La Nation 紙及び Le Matin Libre 紙)
- ・ 2日、アフリカ中央銀行は、ベナンの2021年の対外収支は約5975億CFAフランの黒字であったと発表した。(5日、L' Economiste 紙)
- ・ 2日、アフリカ中央銀行は、2021年中にベナン産綿花の70%が輸出されており、輸出量は前年比25.6%増加し約36.5万トンであったと発表した。(6日、L' Economiste 紙)
- ・ 18日、ベナン政府は閣議で「人工知能及びビッグデータに係る国家戦略2023-2027」を採択した。(19日、La Nation 紙及び Le Matinal 紙)
- ・ 19日、UNICEFベナン事務所は、社会問題・マイクロファイナンス省へのコンピューター、タブレット、プリンター、バイク及び四輪駆動車等の引渡式を実施した。本事業はカナダの資金供与の下で実施された。(20日、Le Matinal 紙及び Le Matin Libre 紙)
- ・ 20日、仏によるベナン国軍への元仏軍所属VAB装甲車8台の供与式が実施され、ヴィジー仏大使が出席した。(23日、L' Evénement Précis 紙、24日、L' Economiste 紙及び Le Matin Libre 紙)
- ・ 27日、ベナン情報通信職業訓練学校及びファーウェイ企画の情報通信教育プログラム(人工知能、クラウド・コンピューティング、5G等)第7期修了式が実施された。(30日、La Nation 紙)

【文化・その他】

- ・ 12月29日及び30日、空手ベナン全国大会が開催された。(2日、La Nation 紙、3日、Le Matinal 紙)
- ・ 10日、ブードゥー教の祭典がベナン全土で開催された。アビンボラ観光・文化・芸術大臣は、アトランティック(ATLANTIQUE)県ウイダ(Ouidah)でブードゥー芸術祭の創設を発表した。(11日各紙)
- ・ 12日から14日、トーゴで、コートジボワール、ニジェール、ナイジェリア、ガーナ、トーゴ及びベナンから各国空手関係者計約250名を集めて合同空手研修が実施され、大隈広一郎七段が師範を務めた。(16日、Le Matinal 紙)
- ・ 16日、医薬品規制当局は、印 Marion Biotech 社製シロップ2種(AMBRONOL 及び DOK-1 MAX)の販売禁止及び回収を発表した。(18日、Le Matinal 紙、19日、Le Matin Libre 紙)